

来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長

椎葉 茂樹

厚生労働省大臣官房厚生科学課長の椎葉でございます。本日は、お招きいただきましてありがとうございます。

この式にお招きいただけるのは2回目で、1回目は大変緊張して何を言ったか覚えていないのですが、今回は2回目ということで、自分の言いたいことを言わせていただきたいと思います。

研究者の皆さまがたには、厚生労働省関係の研究をやっていただき、本当にありがとうございます。

私は厚労省の厚生科学課長ということで、厚労省の研究費の総まとめをしていますが、今、医療開発研究というのはかなり日の出の勢いです。例えば日本医療研究開発機構、AMEDができ、厚労省だけでなく文科省や経産省の研究助成金を一緒にして約1,400億円ほどのファンドをつくり、そこから研究者にファンディングをする仕組みがつけられました。しかし、本フォーラムの先生がたが対象としているような、特に衛生・予防医学関係の研究とか、それから生を厚くする…まさに厚生で、就労であるとか、いろいろな医療や介護人材の育成だとか、そういったことを研究する分野については、なかなか研究費が増えないという状況です。しかし、このファイザーヘルスリサーチ振興財団のおかげで、いろいろな先生がたに研究費が回っていくことを、本当に嬉しく思っておりますし、われわれもこれまで以上に、一層研究費の獲得に努力しなくいけないな、と思っているところです。

そして、私は2回目ということで、今回先生がたに出していただいたプロトコルをじっくり見て、かなり厳しめに審査をさせていただきました。厚労省の目で、特に今後の医療、予防、介護だとか、就労とか、そういったものについて、先生がたのいろいろなアイデアがどれだけ行政の役に立つかという観点で、審査をさせていただきました。その厳しい審査をかいくぐってこられたということで、本当におめでとうでございます。今後とも、その成果を生かして、わが厚労省にいろいろとご提言などをいただければと思っています。

今後とも先生がたの研究に期待をしておりますので、よろしくお願いしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。